

# 公益社団法人白河青年会議所

## 2025 年度 理事長所信

理事長 鈴木 恒平

「スローガン」

夢

～すべての原動力を地域に～

### 【はじめに】

私たち、白河青年会議所はこの地域で67年の歴史を紡いで来ました。その歴史は、先輩方が長い歴史の中で多くの夢を描き、多くの挑戦を繰り返してきた歴史と受け止めており、その功績は今なお「しらかわ地域」に根付き、受け継がれていると日々感じています。

私自身、しらかわ地域で生まれ育ち、とても幸せな日々を過ごしてきたと実感しており、しらかわ地域に住んでいたことで、多くの機会を得て夢を抱くことができました。幼少期には、友人と参加した「ふれあいウォーク」やTV番組の収録観覧、ヘリコプターの搭乗体験等は、当時の私にはその体験は刺激的で私の世界を広げてくれました。

私は青年会議所の存在は勧誘されるまで、ほとんど知らずに過ごしていましたが、思い出を振り返ると入会以前より折々で青年会議所に触れていたことが分かります。それは、他では得難い機会だったと感じます。その機会は、親世代や諸先輩たちが私たち次世代に向けて心を砕き運動活動を展開してきたおかげです。そして、今度は私たちが次世代に向けて運動を展開する時と考えております。

青年会議所は、創立以来「明るい豊かな社会の実現」を掲げ、その存在意義が変えることなく、運動を展開してきました。ただ、近年では激甚災害の発生やウクライナ侵攻、新型コロナウイルスの第5類感染

症の移行等の社会課題が山積し、社会通念や価値観が変化しています。長い歴史の中では、諸先輩方は社会課題に柔軟に対応し、白河青年会議所として挑戦を繰り返してきました。改めて私は、諸先輩方が繋いだ白河青年会議所がこの時代に何ができ、何を求められるのかと考えながらも、前々と歩みを決して止めることない組織として、常に挑戦する白河青年会議所でありたいと考えています。

## 【地域】

私たち白河青年会議所は、福島県南9市町村のしらかわ地域の自然や歴史、食文化、地理的条件等の多くの魅力を開発し、地域の発展を目指しています。そして、各種団体とも協力し合い、魅力的なまちづくりとして運動を展開することで、夢を抱く子供や郷土を愛する市民、交流人口が増え、持続可能な地域になると考えています。

過去には、白河青年会議所がきっかけになり、東北自動車道白河インター誘致や少年スポーツ団体の設立等に関わった歴史があります。いずれの実現には、地域に求められ共感を得ることで実現しました。

青年会議所では「誰一人、取り残さない」という言葉を使うことがあります。SDGs から引用した言葉ですが、青年会議所の根底にある価値観と同じと考えています。青年会議所運動において、「誰一人、取り残さない」を「全ての人が夢を描ける地域」と読み解き、地域に運動の目的に共感を得て、実現した先の姿を夢描くことと考えています。

今、地域には諸団体が運動を展開している中で、地域に受け皿が無い社会課題があるのであれば、私たちが解決するために率先して行動します。ただ、私たちはボランティア団体でも営利団体でもありません。私たちは、求められるままに受動的に動くのではなく、地域のニーズを追求し能動的に動くことで社会課題を解決し、地域から共感を得ることがしらかわ地域の発展に繋がると考えています。

## 【発信】

今の時代は SNS の発展により容易に発信でき、多種多様な情報が飛び込んできます。一方で検索技術の向上により、ピンポイントで情報取得が簡単になっています。但し、中庸的な情報取得が最も難しい検索方法となっています。その為に、白河青年会議所は認知度が決して高い団体ではなく、ピンポイントに検索されることは少ない状況です。その為、私たちの主体事業を別団体が主催したと思っている方に会うことは多々あります。その状況が「白河青年会議所」の認知度の低さを表しています。

ただ、団体より事業の認知度が高いという状況は、私自身は良いと考えています。何故なら、私たちの運動が地域に共感を得られた結果であり、私たちの運動が肯定されていると考えられるからです。

もちろん、地域において白河青年会議所が市民の憧れの的になることが理想ですが、それよりも青年会議所の存在意義を考えれば、地域への発信は社会課題の解決が優先であるべきであり、団体の認知度を上げることではないと考えています。

今一度、私たちも情報発信の目的を考え、発信する手法や対象を明確にする必要があります。その発信の副次効果で白河青年会議所の認知度が上がると嬉しいです。

## 【仲間】

青年会議所では、会員拡大に取り組んでおり、メンバーには 40 歳の年齢制限があることから、いつの時代も若者が集っており、常に新陳代謝がおきる強みを持っています。一方で、人口が減少している中で会員拡大が難しさを抱えています。

私は、会員拡大の正攻法は白河青年会議所が信頼される団体であることが重要と考えています。特に、誰からの信頼かというメンバーから一番重要と考えています。何故なら、メンバーが会員を紹介し勧誘する仕組みになっている為、自発的に動きたくなる組織であれば会員拡大に繋がると考えています。その為に、必要な要因がメンバーの白河青年会議所に対する信頼となります。

では、どのように信頼を得るかですが、それは日々の交流にあると考えています。青年会議所は多種多様な人材が集まっており、運動を展開する為に年齢や立場に関係なく意見を交し合い、密度の濃い時間を一緒に過ごしています。その時間が仲間という絆を生み、組織が信頼できる組織へと成長すると考えます。

他にも、青年会議所では、メンバーと交流をしていく中で自分の得手不得手が見えてきます。その為に運動を展開する中で、お互いを引き立て、助け合うことが必要です。そのことが、新たな可能性を生み、一人ではできない大きな夢を抱くことができます。

最後に、ここで得た絆には、無限の可能性があり、青年会議所に限らずに多くの夢や挑戦を創出していくはずで

## 【組織】

まず、青年会議所という組織はどういった組織か。私は、青年会議所はリーダーの育成組織と考えており、他の研修を中心とした育成組織とは一線を画し、権利と責任が多く付与される実践的な組織です。それを可能にするのは、青年会議所は40歳以下の青年メンバーのみで、自治運営する唯一無二の団体という特徴があり、他には存在しない運営形式だからです。その為に、他では得難い多くの成長の機会がメンバーは得ることができます。

そして、青年会議所では、社会課題の解決に向けて運動を展開することが最大の成長の機会と捉えています。そこには、原因の明確化や周囲を巻き込む力、地域に共感力等といった多くの成長の要素が含まれています。また、一人ではできないこともメンバーが助けてくれ、導いてくれる組織風土があり、社会課題を解決に繋がり、結果としてメンバーのリーダーへの成長がメンバーや組織の成長へととなります。

青年会議所のリーダー育成は、イソップ寓話の教会を建てるレンガ職人で例えられることがあります。その話には、「指示のままにレンガを積む職人」と「自分の収入の為にレンガを積む職人」、「地域の為にレ

ンガを積む職人」と登場します。全員同じ行動をしています、全員の捉え方が違います。青年会議所が目指すリーダーは「地域の為にレンガを積む職人」です。では、彼の捉え方とは何か、レンガを積み教会を建てることはまちに良い影響を与え、まちの人に共感を得ることが出来る。そして、まちの発展に繋がると捉えている。結果、まちの発展は自身にも良い影響をもたらすと考えています。

青年会議所は、最初に述べたとおりリーダー育成を掲げる組織であり、望めば制限されない挑戦や多種多様な交流を得ることができます。望むということは、単に役職を受けるという意味だけではなく、立場に関わらずに役割を全うすることと捉えており、それがリーダーへの成長と考えています。先のレンガ職人で述べたとおり、立場に関わらずに広い視野と共感を得ることの重要性を気づくことができる組織風土が整っています。

また、先に述べた青年会議所の特徴として、40歳以下の青年メンバーのみで、自治運営する唯一無二の団体というがあります。他団体の多くが親会を持ち、多かれ少なかれ親会の意向に影響を受けながら、活動をしているかと思います。青年会議所ではメンバーのみで、地域や組織の未来の為に意見を交わし、決定した方針の基に活動しています。そこには、事業の開催といった表だった部分以外にも、組織マネジメントや事務作業といった、地味ではあるけれど重要な作業も含まれており、それらは例えるのなら土台であり、この土台が強固であればある程により大きな成果に繋がると考えています。

いずれの面においても、メンバーの一人一人が責任とともに成長できる組織と考えています。

## 【むすびに】

私の好きな言葉に「夢無き者に理想無し、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。」があります。私自身、大小関わらずに夢を抱く人の強さに驚くことがあり、夢が全ての原動力だと実感しています。

今、先が見えない時代において、変化を求められ、従来通りの方法や考え方では通じないと感じることも多々あります。また、夢を描けない、描くことが許されない人もいます。それが、しらかわ地域なのか、日本なのか、それ以外か。私には言及が出来ません。ただ、夢を描けないことは悲しいことと感じます。

白河青年会議所の長い歴史の中で掲げ続ける「奉仕」「修練」「友情」といった三信条をはじめとする存在意義や価値観といった青年会議所のブレないものがあります。それを大切に大切に守り、歩みを止めなければ、地域や組織、人に良い影響を与え続けられと考えています。繰り返しになりますが、「誰一人、取り残さない」という言葉は、「全ての人が夢を描ける地域」と読み解き、白河青年会議所として地域が人が夢を描けるように前々と歩みを進めていきましょう。